

The 19th Annual Meeting of Japanese Society of Orofacial Pain



第19回

日本口腔顔面痛学会 学術大会

プログラム・抄録集

会期 ● 平成26年 11月1日(土)・2日(日)

会場 ● 東京医科歯科大学歯学部附属病院 特別講堂

大会長 ● 嶋田 昌彦 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科疼痛制御学分野

メイン
テーマ

口腔顔面痛の
的確な診断と治療法を目指して

第19回日本口腔顔面痛学会学術大会 開催にあたって

第19回日本口腔顔面痛学会学術大会
大会長 嶋田 昌彦



この度、第19回日本口腔顔面痛学会学術大会を東京医科歯科大学歯学部におきまして、11月1日(土)、2日(日)の2日間にわたり、開催させていただくことになりました。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

本学術大会では、テーマである「口腔顔面痛の的確な診断と治療を目指して」をもとにプログラムを作成いたしました。シンポジウムとして「痛みのメカニズムに基づいた診断治療」を企画しました。ここでは、各種疼痛の発生メカニズムについて篠田雅路先生(日本大学)にご講演いただき、神経障害性疼痛症例の診断治療として椎葉俊司先生(九州歯科大学)に、さらに心因性の疼痛や中枢機能に関連する疼痛の診断治療として千葉雅俊先生(東北大学)にご講演いただきます。基礎と臨床の立場で痛みのメカニズムについて活発な議論をいただきたいと考えております。さらに、「OFPに必要な神経内科知識」として、今井 昇先生(静岡赤十字病院)に、「慢性痛の痛み認知機能変化にどのように対応するか」として、大久保昌和先生(日本大学松戸歯学部)に、「OFPに必要な精神科知識」として宮地英雄先生(北里大学)にご講演をいただきます。また、ランチョンセミナーでは、難治性疼痛症例の治療として、医科と歯科の立場から、山口重樹先生(獨協医科大学医学部教授)と瀬尾憲司先生(新潟大学大学院教授)にご講演をしていただきます。

口腔顔面痛に関する国際学会の情報については、小見山 道先生(日本大学松戸歯学部)、築山能大先生(九州大学)、大久保昌和先生(日本大学松戸歯学部)および今村佳樹先生(日本大学)から、世界における口腔顔面痛や疼痛関連学会の考え方、administrationの方向性および最近のトピックスなどを、ご紹介いただきます。

一般演題は、25題を予定しております。会場の関係でポスターではなく、口演となりましたが、会員の皆様の貴重な研究や症例に活発な議論をいただきますようお願いいたします。

学会会場は、東京医科歯科大学の歯学部特別講堂です。都心のJR 御茶ノ水駅に近接しています。よろしくご参加いただけますようお願い申し上げます。

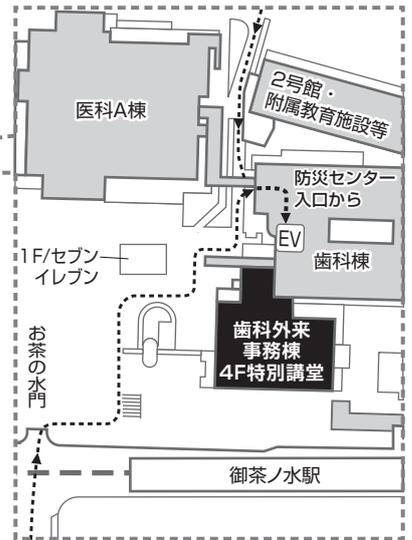
皆様に活発な議論をいただきまして、有意義な学術集会になるよう皆様のご協力をお願いいたします。

会場案内図

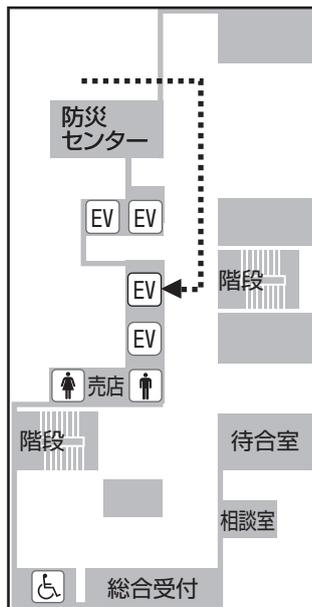
当日は、①お茶の水門もしくは②湯島門(正門)からお入りいただき、歯学部附属病院休日・時間外入口から病院内へお入り下さい。



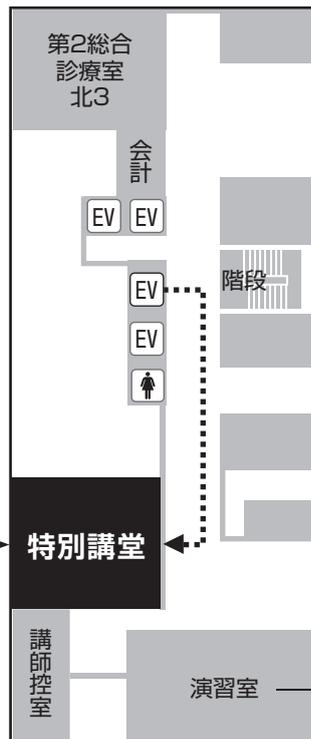
- 歯学部附属病院休日・時間外入口よりお入りください。
- 入口すぐを右折し、エレベーターにて4階へおいで下さい。特別講堂は歯科棟南4階です。



1階 歯科棟



4階 歯科棟



メイン会場

理事会・評議員会

日 程 表

1日目 11月1日土

9:00	9:00~11:00	理 事 会 (4F 演習室)
10:00		
11:00	11:00~12:45	評 議 員 会 (4F 演習室)
12:00		
13:00	13:00~13:40	一般演題 1 O1-1~4 診 査 ・ 診 断 ・ 治 療 座長：村岡 渡 (慶応義塾大学)
14:00	13:45~14:55	一般演題 2 O2-1~7 基 礎 お よ び 臨 床 研 究 座長：篠田 雅路 (日本大学)
15:00	15:00~16:00	一般演題 3 O3-1~6 治 療 法 (ブ ロ ッ ク、薬 物、漢 方) 座長：佐久間 泰司 (大阪歯科大学)
16:00	16:00~16:50	国際学会情報 座長：今村 佳樹 (日本大学) 講師：小見山 道 (日本大学松戸歯学部) 築山 能大 (九州大学) 大久保 昌和 (日本大学松戸歯学部) 今村 佳樹、岩田 幸一 (日本大学)
17:00	16:50~17:20	会 員 総 会
18:00	17:30~	日本歯科医学会 住友雅人会長との懇談会
19:00	18:30~	懇 親 会 (1号館西9F グリルセインツ)
20:30		

2日目 11月2日日

9:00	9:00~10:20	一般演題 4 O4-1~8 症 例 座長：嶋田 昌彦 (東京医科歯科大学)
10:00		
11:00	10:30~12:00	シンポジウム 痛みのメカニズムに基づいた診断治療 座長：金銅 英二 (松本歯科大学) 松香 芳三 (徳島大学) 各種疼痛の発生メカニズム「末梢から中枢まで」 講師：篠田 雅路 (日本大学) 神経障害性疼痛の診断治療 講師：椎葉 俊司 (九州歯科大学) 心因性疼痛と中枢機能障害性疼痛の診断と治療 講師：千葉 雅俊 (東北大学)
12:00		
13:00	12:10~13:40	ランチョンセミナー：トラムセット 難治性筋痛症例治療 座長：嶋田 昌彦 (東京医科歯科大学) 講師：山口 重樹 (独協医科大学) 瀬尾 憲司 (新潟大学)
14:00	13:50~15:05	教育講演 1 OFPに必要な神経内科知識 座長：井川 雅子 (静岡市立清水病院) 講師：今井 昇 (静岡赤十字病院)
15:00	15:15~15:45	教育講演 2 慢性疼痛患者の認知的側面にどのように対応するか 座長：和嶋 浩一 (慶応義塾大学) 講師：大久保 昌和 (日本大学松戸歯学部) コメンテーター：今井 昇 (静岡赤十字病院) 宮地 英雄 (北里大学精神神経科)
16:00	15:45~17:00	教育講演 3 OFPに必要な精神科知識 座長：和気 裕之 (みどり小児歯科) 講師：宮地 英雄 (北里大学精神神経科)
17:00		

プログラム 第1日目

2014年11月1日(土)

開会の挨拶 12:55～13:00

一般演題1 13:00～13:40

[診査・診断・治療]

座長：村岡 渡(慶応義塾大学)

01-1 歯原性歯痛の臨床診断推論

○松下 幸誠¹⁾⁵⁾、野田 哲朗²⁾⁵⁾、尾上 正治³⁾⁵⁾、石井 宏⁴⁾⁵⁾

- 1) 高見馬場歯科、2) ペンシルバニアデンタルクリニック分院、3) おのえ歯科医院、
4) 石井歯科医院、5) ペンエンドスタディークラブインジャパン

01-2 非歯原性歯痛・30症例の検討：下顎運動療法と心理教育の効果

○牧野 泉¹⁾²⁾、西原 真理¹⁾、牛田 享宏¹⁾

- 1) 愛知医科大学 医学部、2) コスモス歯科

01-3 舌痛症患者に対する動機づけ面接 (Medication non-adherence の1例)

○長縄 拓哉¹⁾、佐藤 仁²⁾、飯田 崇³⁾、長縄 瑛子⁴⁾⁵⁾、大石 雅之⁵⁾

- 1) 東京女子医科大学 歯科口腔外科、2) 慶応大学病院 歯科口腔外科、
3) 日本大学松戸歯学部 顎口腔機能治療学講座、4) 東京女子医科大学 神経精神科、
5) 医療法人社団 祐和会 大石クリニック

01-4 狭義心身症モデルである顎関節症(中核群)の一例

○岡安 一郎¹⁾、達 聖月¹⁾、鮎瀬 卓郎¹⁾、和氣 裕之¹⁾²⁾

- 1) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 歯科麻酔学分野、2) みどり小児歯科

一般演題2 13:45～14:55

[基礎および臨床研究]

座長：篠田 雅路(日本大学)

02-1 末梢知覚神経節における神経伝達物質遊離抑制による情報伝達の変化

○大本 勝弘¹⁾、丸濱 功太郎²⁾、田中 紗友里¹⁾、大倉 一夫¹⁾、杉本 朋貞²⁾、松香 芳三¹⁾

- 1) 徳島大学大学院 HBS 研究部 顎機能咬合再建学分野、
2) 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 口腔機能解剖学分野

02-2 鼓索神経傷害モデルにおける疼痛関連行動の観察

○佐藤 有華¹⁾、中谷 有香¹⁾、椎木 直人¹⁾、清本 聖文²⁾、今村 佳樹¹⁾

- 1) 日本大学歯学部 口腔診断学講座、2) 昭和大学歯学部 口腔生理学講座

02-3 口腔乾燥により発生する舌痛に対する三叉神経脊髄路核尾側亜核の役割

○中谷 有香¹⁾、岡田 明子¹⁾、坪井 美行²⁾、篠田 雅路²⁾、岩田 幸一²⁾、今村 佳樹¹⁾

1) 日本大学歯学部 口腔診断学講座、2) 日本大学歯学部 生理学講座

02-4 眼窩下神経結紮により誘発された神経因性疼痛に対する改良 A 型ボツリヌス毒素の効果

○出澤 幸¹⁾、野間 昇¹⁾、佐藤 有華¹⁾、渡邊 広輔¹⁾、加茂 博士¹⁾、岩田 幸一²⁾、今村 佳樹¹⁾

1) 日本大学歯学部 口腔診断学講座、2) 日本大学歯学部 生理学講座

02-5 無侵襲刺激法による刺激深度変更の試み — temporary summation への影響 —

○鳥巢 哲朗¹⁾、田中 美保子²⁾、多田 浩晃²⁾、村田 比呂司²⁾

1) 長崎大学病院 義歯補綴治療室、2) 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 歯科補綴学分野

02-6 舌痛症患者における唾液成分および性状の検討

○井村 紘子¹⁾、杉本 久美子²⁾、山崎 陽子³⁾、嶋田 昌彦¹⁾³⁾

1) 東京医科歯科大学医歯学総合研究科疼痛制御分野、
2) 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻口腔基礎科学分野、
3) 東京医科歯科大学歯学部附属病院ペインクリニック

02-7 舌痛症患者に対する定量的感覚試験を用いた検討

○増田 学、小見山 道、本田 実加、小原 綾子、飯田 崇、川良 美佐雄

日本大学松戸歯学部 顎口腔機能治療学講座

一般演題3 15:00～16:00

[治療法 (ブロック、薬物、漢方)]

座長：佐久間 泰司 (大阪歯科大学)

03-1 超音波ガイド下 C6 星状神経節ブロック — 通法では困難であった 2 症例 —

○椎葉 俊司¹⁾、布卷 昌仁¹⁾、左合 徹平¹⁾、原野 望¹⁾、坂本 和美¹⁾、北村 知昭²⁾、鱒見 進一³⁾

1) 九州歯科大学 歯科侵襲制御学分野、2) 九州歯科大学 口腔保存学治療学分野、
3) 九州歯科大学 顎口腔欠損再構築学分野

03-2 舌痛患者の評価と直線偏光近赤外線の効果についての検討

○加藤 由美子、岡田 明子、篠崎 貴弘、中谷 有香、神田 真麻、今村 佳樹

日本大学歯学部 口腔診断学講座

03-3 Burning Mouth Syndrome におけるクロナゼパムの効果の検討

○富澤 大佑¹⁾、山崎 陽子¹⁾、新美 知子¹⁾、安藤 裕子¹⁾、井村 紘子²⁾、細田 明利²⁾、嶋田 昌彦¹⁾²⁾

1) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 ペインクリニック、
2) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 疼痛制御学分野

03-4 歯原性と CRPS の重複した難治性の痛みに全人的医療を応用した一例

○今泉 うの¹⁾、別部 智司¹⁾、吉田 和市¹⁾、三橋 晃²⁾³⁾、石井 信之²⁾、世良田 和幸⁴⁾

1) 神奈川歯科大学大学院 麻酔科学講座、2) 神奈川歯科大学大学院 歯髄生物学講座、
3) 鎌倉デンタルクリニック、4) 昭和大学横浜市北部病院 麻酔科

03-5 舌の痛みに立効散の含嗽が奏効した一症例

○安藤 祐子¹⁾、山崎 陽子¹⁾、新美 知子¹⁾、細田 明利²⁾、川島 正人¹⁾、嶋田 昌彦¹⁾²⁾

1) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 ペインクリニック、
2) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 疼痛制御学分野

03-6 漢方薬を併用した薬物療法が有効であった口腔顎顔面神経障害性疼痛症例の検討

○川上 哲司、岡澤 信之、山本 育功美、大槻 榮人、桐田 忠昭

奈良県立医科大学 口腔外科学講座

国際学会情報 16:00～16:50

座長：今村 佳樹 (日本大学)

1 「国際学会情報」(IADR)

小見山 道

日本大学松戸歯学部 顎口腔機能治療学講座

2 「国際学会情報」(IADR)

International RDC/TMD Consortium Network の活動

築山 能大

九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講座 インプラント・義歯補綴学分野

3 AAOP & ICOT (The 38th Annual Scientific Meeting of the American Academy of Orofacial Pain & 2014 International Conference on Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders)

大久保 昌和

日本大学松戸歯学部 有床義歯補綴学講座

4-1 OFP 国際学会情報

今村 佳樹

日本大学歯学部 口腔診断学講座

4-2 国際疼痛学会ならびに国際疼痛学会口腔顔面痛専門部会の活動について

今村 佳樹¹⁾、岩田 幸一²⁾

1) 日本大学歯学部 口腔診断学講座、2) 日本大学歯学部 生理学講座

会員総会 16:50～17:20

プログラム 第2日目

2014年11月2日(日)

一般演題4 9:00～10:20

[症例]

座長：嶋田 昌彦(東京医科歯科大学)

O4-1 一般歯科開業医における初診患者に占める痛み患者の割合とその内訳

○吉見 洋志¹⁾²⁾³⁾、薄井 孝弥¹⁾³⁾、高橋 充²⁾³⁾

1) 医療法人隆聖会 吉見歯科・口腔外科クリニック、2) 医療法人隆聖会 浦和吉見歯科クリニック、
3) 吉見歯科春日部診療所

O4-2 筋・筋膜痛による様々な症状を呈した2症例

○渡邊 友希、船登 雅彦

昭和大学 歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座 顎関節症治療学部門

O4-3 耳下腺管の狭窄から顔面痛を引き起こしたと推測される一例

○本田 智美、岡田 明子、小池 一喜、近藤 亜美、今村 佳樹

日本大学歯科病院 口腔診断科

O4-4 急性冠症候群により生じた口腔顔面痛の2例

○後藤 基宏

大阪歯科大学 口腔外科学第二講座

O4-5 下歯槽神経知覚鈍麻と三叉神経痛を併発し原因特定、治療が困難であった一例

○岡村 衣里子、西須 大徳、佐藤 仁、村岡 渡、中川 種昭、和嶋 浩一

慶應義塾大学病院 歯科・口腔外科教室

O4-6 三叉神経痛に対する微小血管除圧術後の心静止した2症例

○北原 功雄¹⁾、今村 桂樹²⁾、野間 昇²⁾、井川 雅子³⁾

1) 千葉徳洲会病院 脳神経外科、2) 日本大学 歯学部 口腔診断学科、3) 市立清水病院

O4-7 double VA (椎骨動脈) による強烈的な三叉神経痛を呈する病態

○北原 功雄¹⁾、今村 桂樹²⁾、野間 昇²⁾、井川 雅子³⁾

1) 千葉徳洲会病院 脳神経外科、2) 日本大学 口腔診断学科、3) 市立清水病院 歯科口腔科

O4-8 15歳発症の典型的三叉神経痛の1例

○北原 功雄¹⁾、今村 桂樹²⁾、野間 昇²⁾

1) 千葉徳洲会病院 脳神経外科、2) 日本大学 歯学部 口腔診断学科

シンポジウム 10:30～12:00

[痛みのメカニズムに基づいた診断治療]

座長：金銅 英二（松本歯科大学）
松香 芳三（徳島大学）

1 各種疼痛の発生メカニズム 「末梢から中枢まで」

篠田 雅路
日本大学歯学部 生理学講座

2 神経障害性疼痛の診断治療

椎葉 俊司
九州歯科大学 歯科侵襲制御学分野

3 心因性疼痛と中枢機能障害性疼痛の診断と治療

千葉 雅俊
東北大学大学院歯学研究科 口腔病態外科学講座 顎顔面・口腔外科学分野

ランチョンセミナー：トラムセット 12:10～13:40

[難治性筋痛症例治療]

座長：嶋田 昌彦（東京医科歯科大学）

1 痛みの薬物療法に関する学習プログラム J-PAT

山口 重樹
濁協医科大学麻醉科学講座

2 顔面領域の慢性痛におけるトラムセットの可能性

瀬尾 憲司
新潟大学大学院医歯学総合研究科 歯科麻酔学分野

教育講演1 13:50～15:05

座長：井川 雅子（静岡市立清水病院）

「OFPに必要な神経内科知識」

静岡赤十字病院 今井 昇

教育講演2 15:15～15:45

座長：和嶋 浩一（慶應義塾大学）
コメンテーター：今井 昇（静岡赤十字病院）
宮地 英雄（北里大学精神神経科）

「慢性痛の痛み認知機能変化にどのように対応するか」

日本大学松戸歯学部 有床義歯補綴学講座 大久保 昌和

教育講演3 15:45～17:00

座長：和気 裕之（みどり小児歯科）

「OFPに必要な精神科知識」

北里大学精神神経科 宮地 英雄

閉会の挨拶 17:00～17:05

「国際学会情報」(IADR)

小見山 道

日本大学松戸歯学部 顎口腔機能治療学講座

国際歯科研究学会(International Association for Dental Research : IADR)は、歯科の全領域の研究を包含する学会であり、2013年で11,657人の会員を有する。この中で、口腔顔面痛の研究を司るグループはNeuroscience Group (NeuG)であり、顎関節症(Temporomandibular Disorders : TMD)の診断基準(DC)に関してはその検討に特化したDC/TMD Consortium Networkも存在する。今回、当方が現在Officerの立場であるNeuGの現状を報告する。

現在NeuGは、230名のメンバー(学生68名を含め)を擁し、神経学の基礎から口腔顔面痛等の臨床まで幅広いメンバーで構成されている。今年の6月24日から南アフリカのケープタウンで開催された学術大会では、2つの口演発表セッションでの11演題ならびに2つのポスター発表セッションでの38演題が発表された。残念ながら12演題(16.4%)はrejectされた。口演発表は、「咀嚼筋と顎関節」のセッションで咀嚼筋の筋電図学的検討や顎関節の炎症などについて、また「口腔顔面痛」のセッションで根管治療後の難治性疼痛の診断や各種口腔顔面痛疾患に対する治療の必要性などについての2セッションで行われ、ポスター発表は「末梢神経および中枢神経システムの機能と障害」のセッションで各種の定量的感覚試験や脳科学、基礎医学等について、また「顎関節と咀嚼筋の生理と病理」のセッションでTMDや咀嚼筋の検査機器等についての2セッションで行われ、それぞれの領域での活発な議論が交わされた。

NeuGでは若手研究者のためのアワードを準備している(Wiley-Blackwell Neuroscience Young Investigator Award)。これは学会期間中にコンペティションを行い、ただちにその学会中のビジネスミーティングで表彰する。最優秀発表者には盾と賞金、2位、3位には表彰状と賞金が贈られる。今年は、最優秀者が同点で2人選ばれたが、1人は日本人である。評価者(5人程度)が英語のネイティブスピーカーであることはむしろ稀であり、さらに日本人の研究は大変優れていると評価されている。したがって基本的な英語での受け答えができれば十分受賞の可能性があり、是非若手の先生方は応募してチャレンジすることをお薦めする。

次回のIADR General Sessionは2015年の3月11日から14日までボストンで開催される。アクセスも良いので、まずはどのような雰囲気なのか体験してみるのはいかがだろうか。学会の大きさと、NeuGのセッションやシンポジウムに触れ、あるいは関連論文や教科書を執筆している著名な研究者に直接、疑問を尋ねることができる良い機会である。世界の研究者は、とてもFrankで誰でもWelcomeである。



略 歴

- 1989年 日本大学松戸歯学部卒業
1990年 日本大学松戸歯学部 総義歯補綴学講座
1998年 日本大学 博士(歯学)
2003年 日本大学松戸歯学部講師
2003年～2005年
ベルギー王国ルーベンカトリック大学歯学部 客員教授
2011年～ 日本大学松戸歯学部准教授 顎口腔機能治療学講座
日本大学松戸歯学部付属病院 口・顔・頭の痛み外来 責任者

代表的所属学会：

- 日本補綴歯科学会指導医 代議員
日本疼痛学会 理事 評議員
日本顎関節学会指導医 評議員
日本口腔顔面痛学会暫定指導医 評議員
日本顎口腔機能学会 評議員
日本歯科心身医学会 評議員
Asian Academy of Craniomandibular Disorders: Council
International Association of Dental Research: President Elect
International Association for the Study of Pain
International College of Prosthodontics
Society of Oral Physiology (Store Kro) Full Member

「国際学会情報」(IADR) International RDC/TMD Consortium Network の活動

築山 能大

九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講座 インプラント・義歯補綴学分野

国際歯科研究学会 (International Association for Dental Research : IADR) は歯学研究を包括する国際学会である。IADR には、各研究分野の研究推進を目的とした Scientific Group と各分野の研究の連携を図るための Network が組織されている。そのうち口腔顔面痛に関しては、Neuroscience Group と International RDC/TMD Consortium Network (以下、“コンソーシアム”) が強く関連している。今回は、コンソーシアムの活動概要について報告する。

コンソーシアムは、そもそも 1992 年に公表された研究用の TMD 診断基準である RDC/TMD (Research Diagnostic Criteria for Temporomandibular Disorders) に関する研究を行うために 2000 年に設立された組織で、2009 年から IADR のサポートを受け、その Network の 1 つとして積極的に活動している。現在、38 か国、約 140 名の臨床医・研究者が所属している。その目的は、TMD、口腔顔面痛および関連する疼痛障害に関して、臨床・研究に利用可能な信頼性と妥当性のあるツールの開発、および標準化された評価法に基づく国際的な研究を通じて、当該領域の科学的な知識を深め、ひいては、適切な医療を行うための情報提供をすることにある。

コンソーシアムの顕著な活動成果としては、2014 年 1 月に公表された RDC/TMD の改訂版である DC/TMD (Diagnostic Criteria for Temporomandibular Disorders) が挙げられる。RDC/TMD (1992) は、もっとも頻度の高い TMD を対象とした生物心理社会的モデル (bio-psychosocial model) に基づく 2 軸診断システム (I 軸：身体的評価；II 軸：心理社会的評価) である。しかし、手順の煩雑さに加えて妥当性に一部問題があることがわかったため、コンソーシアムおよび国際疼痛学会 (IASP) の口腔顔面痛グループが中心となり、厳密な文献レビューおよび多施設臨床試験による信頼性と妥当性の検証を経て、DC/TMD の公表に至った。

コンソーシアムの直近の活動目標には、I 軸の分類をさらに発展させること、II 軸の構成概念とインストゥルメントの批判的吟味を行うこと、定量的感覚測定やゲノムあるいは分子プロファイルなどの臨床的に有用なバイオマーカーを評価するために新たな III 軸を開発すること、頻度の低い TMD について診断基準の妥当性を厳密に評価すること、などがある。コンソーシアムの活動は主に IADR 学術大会直前のサテライトシンポジウムやワークショップ、および国際疼痛学会での口腔顔面痛グループとの共催シンポジウム等である。これを機会に、是非コンソーシアムの活動に触れて、より良き道具の開発に参画していただきたい。



略 歴

- 1987年 九州大学歯学部 卒業
1991～1999年 九州大学歯学部附属病院 助手(第2補綴科)
1995～1997年 UCLA 歯学部 訪問研究員(Diagnostic Sciences and Orofacial Pain)
1999～2002年 九州大学歯学部附属病院 講師(第2補綴科)
2002～2007年 九州大学大学院歯学研究院 助教授(口腔機能修復学講座)
2007年～現在 九州大学大学院歯学研究院 准教授(同上)

代表的所属学会：

日本顎関節学会 代議員、専門医・指導医、学会症型分類とRDC/TMD分類の検証委員会委員ほか

日本補綴歯科学会 代議員、専門医・指導医

日本口腔顔面痛学会 評議員、暫定専門医・指導医

International RDC/TMD Consortium Network, Secretary

Asian Academy of Craniomandibular Disorders, Council Member

International Association for the Study of Pain

AAOP & ICOT
**(The 38th Annual Scientific Meeting of the American Academy of
Orofacial Pain & 2014 International Conference on Orofacial Pain
and Temporomandibular Disorders)**

大久保 昌和

日本大学松戸歯学部 有床義歯補綴学講座

American Academy of Orofacial Pain (以下 AAOP) の学術大会は 1975 年に初めて開催されて以来、世界の口腔顔面痛の臨床や教育、研究をリードし“口腔顔面痛学”として発展させてきた。学術大会は、テキストブックや論文の著者と直接あって気軽に話ができるフランクな場所でもあり、いつも最新の情報であふれている。

第 38 回目となった AAOP 学術大会が 2014 年 5 月 1 日から 4 日の日程で、米国ラスベガス郊外のレッドロックリゾートで行われた。今回の学術大会はすべてのシスターアカデミー—アジア、ヨーロッパ、オーストラリア・ニュージーランド、そしてイベロ・ラテンアメリカ—のメンバーが一堂に会して行われる国際学会 International Conference on Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders (ICOT) との併催となり、少なくとも世界 35 の国や地域から 550 名を超える参加者が集い、AAOP/ICOT の歴史の中で最も大きな大会となった。

Dr. Gary Heir (Rutgers School of Dental Medicine) が学術大会のプログラムチェアをつとめ、「A World of Relief」というメインテーマで、米国内をはじめ世界中から著名な講師陣を招いて、口腔顔面痛に関わる EBM から睡眠までを網羅する内容であった。一般口演はポスター 40 題が採択されコンペティションが行われた。

米国の主要な Orofacial Pain の卒後研修プログラムは Commission on Dental Accreditation (CODA) の認証を受け、高度歯科教育プログラムの 1 領域 (Advanced General Dentistry Education Program in Orofacial Pain) として正式な米国歯科医師会 (ADA) 認定プログラムとなり、この領域のさらなる発展が期待されている。

さて、次回の AAOP は 2015 年 5 月 7 日から「Sleep and Pain: A Translational Approach to Comprehensive Care」というテーマでコロラド州デンバーにて開催される予定で、学術大会への参加をきっかけに留学へのチャンスを探してみたいかでしょうか。



略 歴

- 1992年 日本大学松戸歯学部 卒業
1996年 日本大学大学院松戸歯学研究科博士課程修了
1998年 日本大学松戸歯学部 助手
2001年 日本大学松戸歯学部 講師(専任扱)
2002～2003年
日本大学海外派遣研究員として University of California Los Angeles に留学
2007～2008年
日本大学海外派遣研究員として University of Southern California に留学
2007年～現在
日本大学専任講師

代表的所属学会：

- 日本補綴歯科学会専門医
- 日本頭痛学会専門医・指導医
- 日本口腔顔面痛学会(暫定)専門医・指導医
- Diplomate, American Board of Orofacial Pain
- Fellow of American Academy of Orofacial Pain

OFP 国際学会情報

今村 佳樹

日本大学歯学部 口腔診断学講座

このセッションでは、日本口腔顔面痛学会が深く関係している国際学会関連の情報を発表し、それぞれの学会がどのような活動を行っているかを会員の皆さんに理解してもらうとともに、日本口腔顔面痛学会としてどのようにかかわってゆくべきかを検討します。現在、口腔顔面痛を取り扱っている国際的な団体は、International Association for the Study of Pain (IASP) の中の Special Interest Group of Orofacial Pain (SIG-OFP), American Academy of Orofacial Pain (AAOP) とその Sister Academy である Asian Academy of Craniomandibular Disorders (AACMD), その国際学会である International Congress on Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders (ICOT), さらには International Association of Dental Research の Neuroscience Group (NeuG) などです。そのほかにも、American Academy of Oral Medicine (AAOM) や歯科麻酔関係の国際学会である International Federation of Dental Anesthesiology Societies (IFDAS) などもあります。ここでは①IASP の SIG-OFP と②AAOP/AACMD、③IADR-NeuG の活動について紹介し、これらの学会における当日本口腔顔面痛学会の立ち位置について説明を加えます。特にこの数年の間には、IASP や AACMD, ICOT も日本での開催が予定されており、当学会が国際社会に果たす役割は大きいものがあります。学会としてはもちろんですが、日本国内の活動だけでなく、日本の OFP を世界にどう発信してゆくかについて、個々の会員も考えてゆく必要があるといえます。



今村 佳樹 略歴

- 1981年 九州歯科大学卒業
九州歯科大学大学院入学(歯科麻酔学専攻)
- 1985年 九州歯科大学大学院修了(同上)
九州歯科大学助手(歯科麻酔学講座)
- 1986年 九州歯科大学講師(同上)
- 1987年 関東通信病院ペインクリニック科研修生(国内留学)
- 1994年 米国国立衛生研究所国立歯科研究所麻酔・神経生理部門
客員研究員(1995年まで)
- 1998年 九州歯科大学助教授(歯科麻酔学講座)
- 2003年 日本大学歯学部教授(口腔診断学)
現在に至る

第19回日本口腔顔面痛学会学術大会の開催に際しまして、 御支援を賜りました企業への謝辞

本大会の開催に際しまして、ヤンセンファーマ株式会社、株式会社
ツムラ、化研生薬株式会社、株式会社ハセガワメディカル、クラシ
エ薬品株式会社の5社より御協賛いただきました。

ここに厚く御礼を申し上げます。

第19回日本口腔顔面痛学会学術大会 プログラム・抄録集

大会長：嶋田 昌彦（東京医科歯科大学大学院）

事務局：東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科
口腔機能再構築学講座 疼痛制御学分野
準備委員長：山崎 陽子
〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45
TEL/FAX：03-5803-4563

出版： 株式会社セカンド
学会サポート <http://www.secand.jp/>

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025